



東海学生連盟審判研修・3Cアカデミー実技研修 報告

2019年8月10日(土)～13日(火) 飛騨市にて「東海学生連盟審判研修と3Cアカデミー実技研修」を合同で実施しました。目的は、飛騨市が毎年ユースサッカーフェスティバルを8月に実施しており、その試合を借りて、東海学生連盟審判員と3Cアカデミー審判員(一部)のスキル向上を図る事でした。参加チームは、近年各県でベスト8以上の成績があるユースチーム(サテライト)・参加数は24チームでリーグ戦・順位決定戦を行いチームの強化を図ります。トップチームではありませんが「この大会でトップチームに上がりたい」と思っている競技者ばかりで多数の試合で白熱したゲームが展開されました。また「ボールにプレーする事に思いが入り過ぎ、ラフプレーになってしまったケース」もありましたが、そのような白熱する試合でも審判員は、冷静に自分自身の力を発揮しました。また、試合後は宿舍にてビデオで振り返りを行い「競技規則」と照り合わせて確認しスキル向上を図りました。審判員の中には“全国レベルのスピード・激しさ”に戸惑うユース審判員も見えましたが、無事に試合を終えた事は評価したいと感じました。今回の実技研修で「学んだ事・気づいた事」を今後の審判活動に活かしてほしいと願うばかりです。他に、岐阜県の一部ユース審判員も参加し、研修を通して素晴らしい「たち振る舞い」に刺激を受けました。

今後も3Cアカデミー審判員の育成に取り組む事と同時に「ユース審判員が実際に試合で活動できる環境作り」に取り組んでいかなければならないと感じました。その為には、「審判だけでなく技術・運営等サッカーを取り巻く人々がユース審判員のジャッジを温かく見守る事」が求められると思います。

最後にこの紙面を借りて、主催者であるJSP様・飛騨市に感謝申し上げます。

【 試合風景 】



【 試合振り返り 】



■「常に振り返り、模索し続ける事」の大切さ 編集後記

今回、初めて飛騨古川ユースサッカーフェスティバルに審判指導者として参加させていただきました。酷暑の中、審判員は正しい判定をする為に「どこに位置取りをしたらよいか模索しながら試合をコントロールしていました。この姿勢に“ふと”「私たち指導者は、どうなのか」考えさせられました。「一言で指導法」と言っても多種多様な方法があります。基本的な事は疎かにせず、常に自身の指導法を振り返り「新たな指導法を学び続ける・模索し続ける事」が審判員の育成に繋がるのでは・・・と私はと思いますが、皆さんはどう考えますか？ (K A)